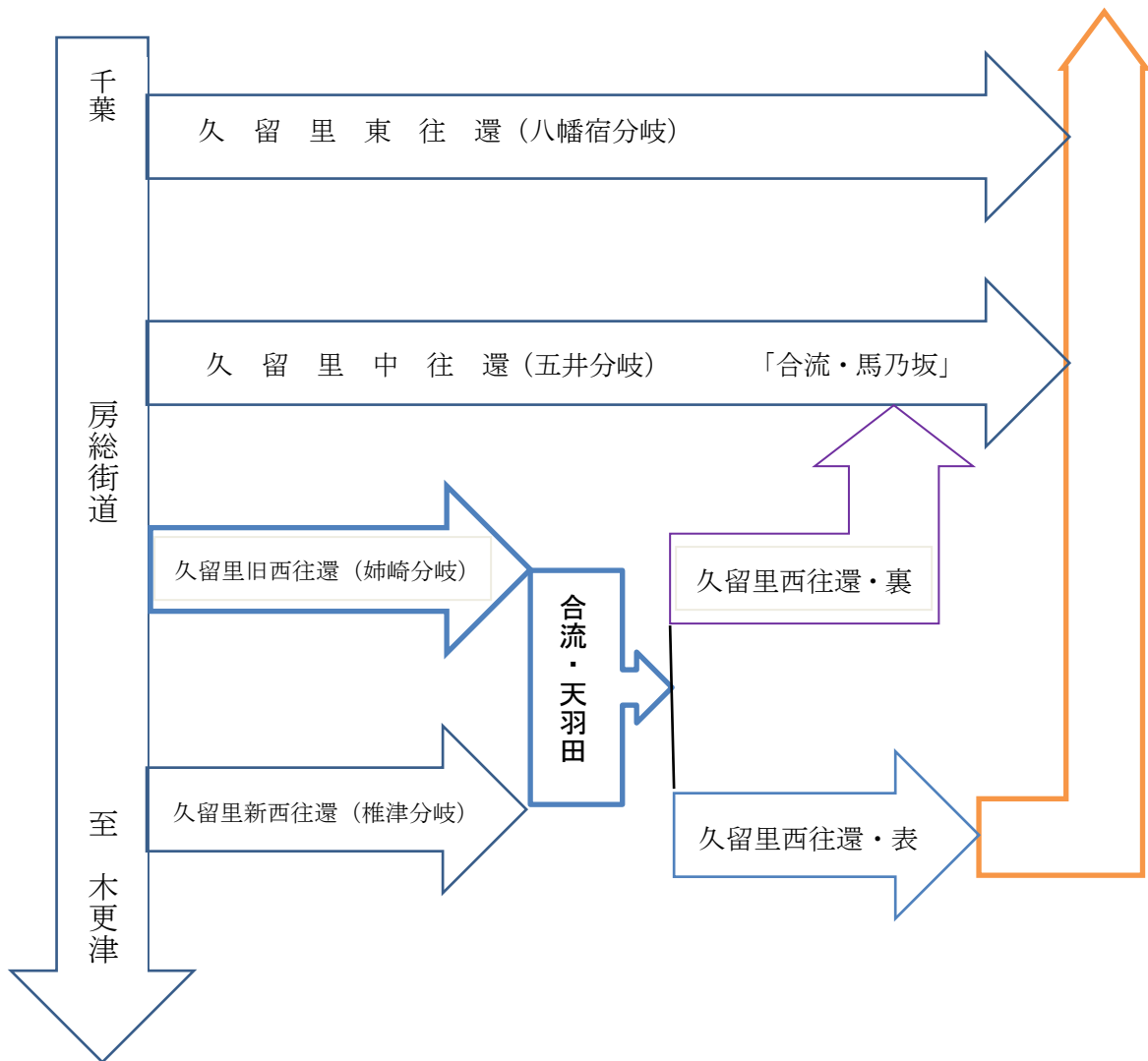


久留里旧西往還

木更津方向から千葉方面に伸びる房総街道。

その房総街道に面している、「クスリノマツモトキヨシ姉ヶ崎店」横から分岐して久留里旧西往還は始まる。

又、逆に言えば、久留里城からの久留里旧西往還はここで終わることになる。





左：五井方向から姉ヶ崎に繋がる房総街道は、更に木更津方向に延びている。久留里旧西往還は現在「薬のマツモトキヨシ姉ヶ崎店」傍から斜め左に入る道（矢印）がスタート点である。分岐点は
北緯 35° 28′ 50,69″
東経 140° 02′ 57,93″

右：やがて茂原街道（県道13号線）を横切る。その先左には新設の内田病院がある。この辺りの旧西往還は、勾当用水路と並行している。

今はコンクリートの蓋で覆われているが、往時は通りの家の人達の生活用水でもあった。

分岐点からの距離 370m

北緯 35° 28′ 41,03″

東経 140° 02′ 49,82″



左：割烹「網元」を通り過ぎて、内田病院方向を振り返った写真。

ここは、「網元」を囲むように七差路となっている。写真奥側に「JA 姉ヶ崎」や「ロイヤルホテル」がある。このホテルは元旅籠「丁子屋」で、小林一茶も投宿したことがあるという。

手前カーブミラーのある道を右に向かい直ぐに右折すると「姉崎神社」の鳥居が見える。神社に向かう参道である。左側に進むとJR姉ヶ崎駅。

「網元」の左側には「稻荷神社」がある。更に左に進むと「ほっともつと」。



茂原街道（県道13号線は）起点が国道16号線の「姉崎海岸交差点」（交差点角に姉崎中央自動車学校がある）の信号からである。

姉ヶ崎駅方向に向かい内房線を跨ぐ陸橋を超え最初の交差点（ここまで910m）を左折して、房総街道を五井方向に約196m進む。

三叉路の交差点（交差点角に博全社がある）を右折する。

進むと内田病院の所で本題の久留里旧西往還と交差する。

茂原街道は

市原市—長生郡長柄町—長生郡長南町—茂原市を結ぶ29.3kmの地方道で

1972年10月11日に認定されている。

2017年1月3日の午後、連れ合いの買い物時間の調整のつもりで、この界隈を歩いていた。

イトーヨーカドー方向から「ロイヤルホテル」や「JA姉ヶ崎」の傍を通り久留里旧西往還方向に向かった。

そして前を行く母子と見える方達に追いついた。

娘さんは車椅子である。母と思える方に話掛けてみたら、生まれも育ちも土地の方であるという。

現在コンクリート製の蓋で覆われている勾当用水について

「米を研いだり、野菜を洗ったりの生活用水路であった」

「どちら側が、川上か川下かは定かではない」

又、「昔は姉ヶ崎の駅から、姉崎神社までは一面の田んぼで見通す事が出来た」等を話してくれた。

しかし私が桜台に引っ越して来たのは35年前であったが、現在の街並みと大きく違ってないと思っている。

姉崎神社から姉崎駅まで一面の田圃であった時代と言うのは、何年前のことなのか調べてみる必要がある。

とするとこのご婦人は何歳なのだろうか？。60歳以上には見えないのだが・・・。

その後、市の中央図書館やネットで色々資料を探してみた。

そして、国土地理院の航空写真の中に1946年2月28日アメリカ軍撮影のものがあつたのを見つけた。

昭和21年といえば、戦後間もなくのものであり私にとっても貴重な映像である。確かに姉崎神社参道の両側は、田圃である。

昭和21年(1946年)当時の姉崎



国土地理院航空写真 M58-A6 写真番号55 1946年2月28日

写真が古くやや不鮮明ではあるが、母娘に話していただいた、「姉崎神社から駅までは周り一面田圃だった」というのは、この時代のことではなかろうか。

現在は内房線となっているが、当時は房総西線であった。



左：通りを進むと、右側にファミリスの「ローヤルホスト」が見える。ここを歩いているときに、家の前にいた年配の方に「ここは旧久留里みちでしたか？」と聞いたら「ああ、そうだよ」と教えてくれた。写真の西往還の左側には、仕切りは無いが、勾当用水暗渠のコンクリートの板波が微かに伺われる

右：更に進むと突然大きな片側2車線の平成通りに至りそこを横切る。この平成通りは第二の「国道16号線」と聞いていたが、袖ヶ浦市内は完成しているが、市原市はここから東に1km程で、木更津市は袖ヶ浦市との境で切れている。自治体の様子が良くわかる。

・分岐点からの距離 1.14 Km
 北緯 35° 28' 19,42"
 東経 140° 02' 37,71"



左：平成通りを横切ると、通りは更に曲がりくねって進む。家を建てる時に、道路が都合の良いように曲げられた感が強い。この近くは姉崎中学校・幼稚園・市役所支所・姉崎公民館などがある文教地区である。写真の左側が文教地区、右にはヤックスドラッグ姉崎店が見える。

・分岐点からの距離 1.28 Km
 北緯 35° 28' 15,55"
 東経 140° 02' 40,10"

右：姉崎公民館

建物に向かって右側端に、市役所支所真ん中一階に図書室、左側には事務所、体育館がある。文化祭時期になると各種展示等、催事が行なわれる。図書室の二階では、絵画、習字、焼き物等の教室が開かれる。



左：姉崎公民館から南に進むと、県道24号線・鴨川街道に至る。勾当用水は、この街道の下を横切っている。

写真左側が、鴨川方面、右側が姉ヶ崎駅方面である。

左に少し進んで左折して坂を登ると出光勾当水社宅に至る。

・分岐点からの距離 1.47 Km

北緯 35° 28' 10,17"

東経 140° 02' 36,86"



左：県道24号線を横切ると、今まで長い距離暗渠であった勾当用水はようやく日の目を見る。

横切ったすぐ先に橋があり、この下を通った右には水門があり一部の水が境川（椎津川）に越流水として流れるようになっている。顔を出した用水路は柵によりガードされ、路を歩く人の安全が保たれている。

右：2016年現在の勾当用水は水は澄んでなく濁っている。
しかし誰が放ったか知らないが多くの「錦鯉」が泳いでいる。
私が近付いても寄ってくるので、誰かが餌を与えているのだろう。
水を綺麗にして環境を整えたら、市民の憩いの場となると思う。
この道の先は現在三叉路になり左右に道が分かれる。
三叉路までは、分岐点から1.72Km



左：無くなった久留里旧西往還跡と思われる草原。

従来の久留里旧西往還は現在の雇用促進住宅迎田宿舎西側を通っていたが、路は無くなっている。
勾当水路は真っ直ぐ伸びている。

右：進行右側、椎津川の向こうには「アネッサ」が見えてくる。
この辺りは河川が整備されたところで東京湾河口まで改修された。





左：写真矢印が「勾当用水取水口」である。

分岐点からの距離 2.00 Km

北緯 35° 27′ 54,55″

東経 140° 02′ 35,42″

当に奇跡的なことであった。

何処が取水口であるのか、昨年暮れからこの2か月は調査したり、資料を探しまくっていた。偶々付近を歩いていたら新屋敷さんが仕事で家の外に出てきたところであったのだ。

久留里旧西往還は新屋敷邸の直ぐ右横を通り進む。直進の道は改修後の椎津川沿いの新しい道である。

「勾当用水取水口」の場所や旧椎津川本流の位置等教えてくれた新屋敷さんは、(有)新電気工業所の社長さんである。右側が椎津川で勾当橋が架かっている。橋を渡った先には「鶴牧台ゴルフ練習場」があったが、現在はソーラー発電所になっている。



右：進行方向から「迎田住宅」方向を振り返った様子。

(航空写真で見ると、迎田住宅は出来た当時4棟あったが、現在は2, 3, 4号棟のみである)

一面の水田跡が伺える。農業後継者が居ないせいなのか、こうした荒れ地が最近多く目につく。やがて進行方向左手に高層住宅が見えてくる。ガーデンコート姉崎1号棟・2号棟である。





左：片又木川に架かる橋。
 ガーデンコート奥方向から流れ出る川が「片又木川」で、この橋の下を通り100m程で合流して椎津川となる。房総街道分枝点から橋迄の距離：2.3km
 椎津川を有秋中学校方向に遡ると「不入斗川」と「深城川」に別れる

右：椎津川に架かる「世起免橋」を過ぎて「堀の内橋」方向に向かう道の左側に石仏が三体立っている。一体は地藏さんで、やや離れている。椎津川改修前は、路は地藏さんの東側を通っていたが、現在は川沿いとなり西側となっている

北緯 35° 27' 39,67"

東経 140° 02' 47,87"

下：右側は馬頭観音で、道標でもある。左側面には“北”

“江戸道 拾四里”

“ちばてら四里十丁”

右側面には“南”

“くる里”

“たかくら” と彫り込まれている。



勾当用水取水口 1988年10月31日 国土地理院航空写真



右：改修の終わった椎津川下流方向を望む。見えている橋は「堀の内橋」である。
久留里旧西往還は、この辺りから本当の意味での古い道筋になる。
椎津川の改修も2017年現在岡田橋の所までで、ここから上流はほぼ源流のままである。



左：庚申様（子安神社）
最近までお堂の中に祀られていたが、2016年にはお堂は無くなっていた。
右側「庚申」の文字の下側に三猿が彫られている。
左側には、子供を抱いた女性の像が彫られている。

右：アネックスゴルフ練習場入口



左：有秋中学校側の深城川
深城川沿い右に久留里旧西往還、往還右の高台には校舎。
川の左側には校舎側と陸橋で結ばれたグラウンドが広がっている。

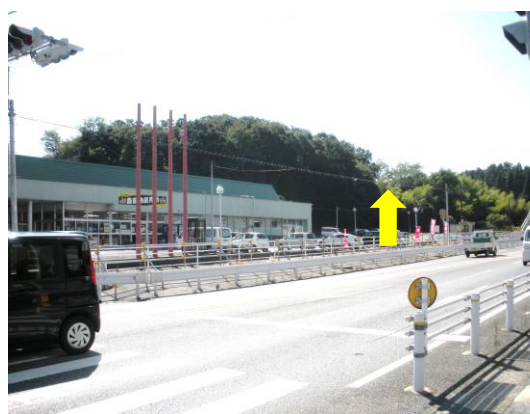
右：中学校を過ぎて進むと、右側に稲荷神社が見えてくる。鳥居をくぐり、階段を登ると本殿に至る。



左：霊光寺参道入り口に建立されている「青面金剛」像。像の下側には三猿が彫られている。



右：昔ながらの、平らな道が続く。



左：やがて、県道24号線（千葉・鴨川線）通称久留里街道に出る。久留里旧西往還は、街道沿いに姉崎病院に沿うように少し、鴨川方向に進む。迅速測図によると、Aコープの駐車場の山際から道はあった。矢印の所にかろうじて旧道の片鱗をうかがえる。



左：姉崎病院付属養護老人ホーム
 写真右側の建物は「Aコープ」
 久留里旧西往還は、姉崎病院沿いに現在の鴨川道を鴨川方向に約100m進み、道路を直角に横切り山沿いに約100m進む。
 そこから、山を登るように道があったが、今は桜台団地一丁目の住宅になっている。
 今まで調査された方達の記録を読むと、桜台の中は現在の道路とほぼ同じルートであったとあるが、明治時代に作成された「迅速測図」とは、明らかに異なる。

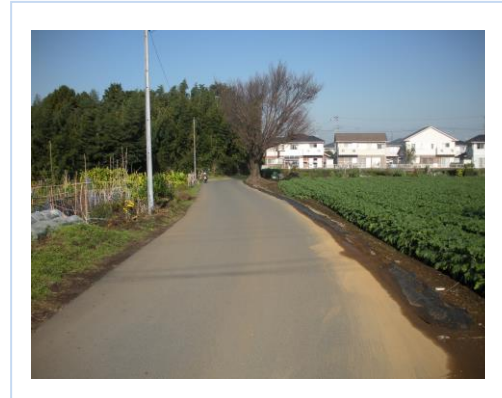
右：三丁目の高台方向からの風景。
 正面は桜台自治会館である。
 下り坂は「桜台通り」に直交する。
 左手には郵便局、右手にはバス停傍の広葉樹。
 久留里旧西往還は郵便局の裏側を通っていた。



左：やがて道は標高60m程の桜台頂上方向に向かう。
 桜台は北斜面である。
 更に往時を凌ぐ林が、三丁目と四丁目の境にある山で目にする事が出来る。
 夏の暑い時には一服の涼を与えてくれたと思うが、昼なお暗い道であったに違いない。




上：桜台を過ぎて、従来の久留里旧西往還に戻る。
奥が桜台三丁目。左手の竹林は遠矢さん宅の敷地内である。



上：桜台を過ぎると長閑な田園風景が広がる。



合流点  から、久留里旧西往還方向を望む。左奥に桜台団地が見える。
房総街道分岐点からの
距離：5.53 km
標高：60.6mである。
合流地点の位置は北緯 35° 26′ 13.07″ 東経 140° 02′ 53.27″



上：ここが久留里西往還の旧・新の合流地点である。
 合流地点手前の旧西往還側には地蔵様が建立され、最右端の地蔵さんの建立台には
 東 川原井
 南 久留里
 と彫られている。
 合流点は三叉路になっており、写真右側からは房総街道沿いの瑞安寺前より分岐する久留里新西往還が伸びてきている。
 ここからは久留里西往還となり、左30m程先から、更に久留里西往還表と久留里西往還裏に分れる。

右：行き止まり方向から進んできた「久留里新西往還」は更に写真奥方向の久留里に向かって進む。
 写真向かって左側が桜台三丁目、右折路の手前が椎津になる。久留里に向かって右折路に接しているブロック塀の家の住所は天羽田になる。

